

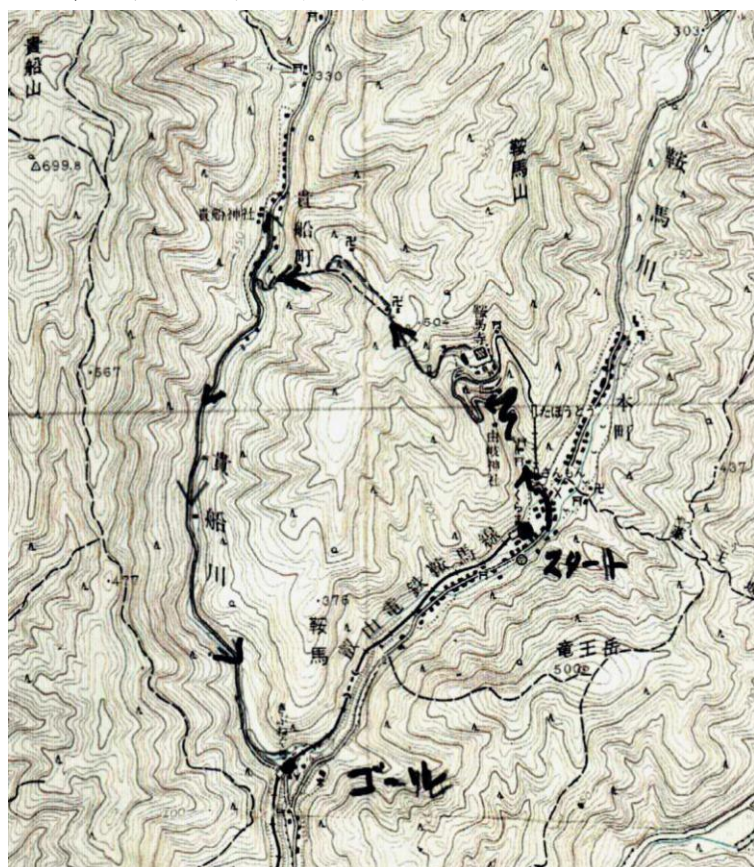


パワースポットの鞍馬寺から貴船神社

今回の森シリーズは鞍馬山に行きたいと思います。叡電鞍馬線は2020年7月7日～8日にかけて降り続いた雨のため貴船口駅付近で土砂崩れ等の被害が発生し市原駅～鞍馬駅まで運休となりました。工事の完了で2021年9月18日より開通となり電車で行くことができるようになりました。電車の中から土砂崩れの様子をご覧ください。自然の力には驚くばかりです。鞍馬寺の建物にも大きな影響があったようです。今回は久しぶりに鞍馬山を訪れたいと思います。例会活動予定表では集合場所を出町柳駅としていましたが、叡電鞍馬駅集合としました。鞍馬寺まではゆっくりと登っていきます。

なお、前日の午後6時の天気予報で京都南部降水確率50%以上の場合は中止します。メールでもお知らせいたします。

- 1: 日 時 2022年5月19日(木) 叡電鞍馬駅集合 10時31分 行程距離 約5.5km
 2: 持ち物 弁当、水筒、マスク、雨具、ストック他 鞍馬寺入場料 300円(科より補填願います)
 また鞍馬寺近くまでケーブルがありますが、こちらは個人で支払いを願います。一人200円です
 3: 行 程 鞍馬駅(トイレ)・鞍馬寺山門・由岐神社・鞍馬寺本堂(昼食・トイレ)・奥の院入口・
 僧正が谷不動堂・奥の院魔王殿・鞍馬寺西門・貴船神社鳥居・貴船神社・貴船口駅(解散)
 4: 経 路 下の地図参照



鞍馬の天狗は、鞍馬山の奥、僧正ヶ谷に住むと伝えられる大天狗である。別名を鞍馬山僧正坊といいます。牛若丸に剣術を教えたという伝説で知られる。法眼と同一視されることがある。

日本全国各地の霊山、比叡山、飯綱山、白峰山、大山、彦山、愛宕山、高尾山、迦葉山等には決まって天狗伝承があります。

また、天狗にも階層が付けられています。上から大天狗 小天狗 烏天狗 木の葉天狗 で鞍馬山の大天狗は僧正坊と呼ばれ日本各地の天狗の総元締めと言われています。天狗とは「精霊」のことでこの鞍馬山には自然の宇宙エネルギーが降り注いでいる「不思議空間」でありパワースポットの地として人気があります。

パワーを全身に浴びる →

担当Cグループ・森シリーズ 担当者 山本、李三



鞍馬駅にある今の天狗

過去には天狗の鼻が折れたことがありました。新しくなった天狗の向きや顔つきが過去の天狗と違っていています。



鞍馬駅にあった以前の天狗



鞍馬寺の仁王門

鞍馬駅から少し進んだところにある門です。この門には湛慶（たんけい・鎌倉時代に活躍した彫刻家で運慶の長男）作の仁王尊像をまつり、俗界から浄域への結界とされています。仁王門を潜っていくと牛若丸に平方を授けたと言われる武芸の達人・鬼一法眼祀っている鬼一法眼社台風のためか壊れ撤去されていました。



鞍馬寺山門

由岐神社

「鞍馬の火祭り」が行われる神社で、かがり火で山一面が赤くなる勇壮な祭りです。毎年10月22日に行われます。この火祭は京都の三大奇祭の一つとして有名です。ちなみに後の2つの祭は「玄武やすらいまつり」と「太秦の牛祭」です。詳しい内容については省略します。



鞍馬の火祭りはここ由岐神社で行われる
鞍馬寺本殿の狛犬も寅でした。



鞍馬寺の狛犬

鞍馬寺の仁王門前には、左右に狛犬ならぬ阿吽の寅が配置されています。これは、唐招提寺の開祖である鑑真和尚の高弟鑑禎が夢のお告げで鞍馬山に登ると鬼女に襲われ、毘沙門天によって助けられたのが寅の月、寅の日、寅の時刻だったためと言われています。また、金堂には毘沙門天の神使、寅の狛犬があります。



鞍馬寺山門前の狛犬

鞍馬寺本殿（金堂）

源義経（牛若丸）が幼少の頃過ごした寺として一般に知られていますが、パワースポットの一つで、天のエネルギーが降臨すると言われている正殿前の「六芒星」^{ろくぼうせい}この中心にたつと、エネルギーを感じるそうです。一度みなさんお立ちになってみてください。



天のエネルギーパワーを感じてください。

← 金堂前の阿行の狛犬ならぬ狛寅

鞍馬寺で昼食を摂った後、木の根道を通り僧正ヶ谷不動堂、鞍馬奥の院・魔王堂を経由し貴船神社に下っていきます。山道かやや急な坂道となっていますので、ゆっくりと歩いていきます。出発前には必ずトイレを済ませておいてください。(鞍馬奥の院・魔王堂にトイレがありますが、小さく1つしかありませんので、我慢できな方のみ)

鞍馬山僧正ヶ谷不動堂

謡曲「鞍馬天狗」が牛若丸と出会ったと言われる場所です。ここにも「六芒星」がありパワースポットとなっています。義経堂もここにあります。なお、謡曲の「鞍馬天狗」のあらすじとは次のようなものです。

謡曲・鞍馬天狗のあらすじ

源平の争乱がまだ始まらない頃こと、世の中は平和で平家の全盛期でした。そんなある春の日、鞍馬山東谷の僧が平家の公達や稚児達を連れて、西谷へと桜の花見に出かけます。皆が花見の宴を楽しんでいると、そこに見知らぬ山伏が一人紛れ込んでいました。場違いの者がいることを嫌った僧や公達は、ひとりの稚児を残して去ってしまいました。その取り残された稚児こそやがて源義経となる牛若丸でした。その当時の名は沙那王でした。牛若丸はその山伏に声をかけると山伏はその稚児が源義朝の子であることを見抜くのでした。牛若丸は「他の稚児たちは、皆、平家一族で自分だけが源氏だから何かにつけて辱めを受ける。私は月にも花にも見捨てられた者なのだ」と自らの不遇を語ります。

山伏は同情し牛若丸を慰めるため愛宕や比良、吉野などの花の名所に案内します。そして、自分の正体は鞍馬山の犬天狗であることを告げ、武芸を伝授するので平家を滅ぼすよう勧め、再会を約束して消え去りました。。。。。。

鞍馬寺 奥ノ院・魔王殿

奇岩の上にある小堂で魔王殿は、650 万年前に仁る救済のため使命を帯び、金星から降臨した魔王尊が祀られている。魔王殿の後ろにある社に魔王尊が祀られています。



魔王殿



魔王殿の裏にある魔王尊の社

鞍馬寺の紋章は鞍馬山の犬天狗の団扇ではと思われる方がおられるかもしれませんが、それは違います。菊の花を横から見た時の形を表しています。

西門を出たところから少し進むと貴船神社に着きます。



鞍馬寺の紋章は菊の花から

← 貴船神社の神紋は双葉アオイで上賀茂、下鴨神社と同じです



貴船神社の鳥居

貴船神社で御朱印を頂きました。貴船神社のパンフレットの気生根略記に創建年代は不詳ながら神武天皇の皇母にあたる玉依姫命（たまよりひめのみこと）が黄船の乗って大阪湾から淀川、鴨川を遡り、現在の奥宮の地に至り水神を祀った野が創建と伝わると書いています。

鞍馬山の尾根は貴船川と鞍馬川の分水嶺で、両川が合流し高野川となって下り、出町柳辺りで西から流れてくる賀茂川とまた合流し鴨川となって下流で更に桂川と出合、三川合流地で淀川となります。

貴船神社 本宮

京都の水源地として、古くから水の神様として崇められてきた。本殿近くにある神水は美味しく飲めることだけでなく水占いもできる。創建年代は不明ですが、貴船本宮から 500m ほど進んだところにある奥宮がもともとの鎮座地です。天喜3年（1055）に奥宮から現在の地に場所に移築された。



貴船神社本宮

